

愛知県 定時制・通信制教育アップデートプラン（案）に対するパブリック・コメントの結果について

「愛知県 定時制・通信制教育アップデートプラン（案）」に対して、2022年11月28日から12月27日までの間にパブリック・コメントを行い、16人から34件の意見の提出がありました。

集計は、下記のとおりとなります。

提出された意見につきましては、項目ごとに区分して、県の考え方を整理しました。

2023年1月16日

<集計結果>

・提出人数： 16人 ・提出件数： 34件

■提出方法

区分	メール	郵便	FAX	合計
人数	11	3	2	16
%	68.8	18.7	12.5	

■地区別

区分	名古屋	尾張	知多	西三河	東三河	県外・不明	合計
人数	6	2	2	3	1	2	16
%	37.5	12.5	12.5	18.7	6.3	12.5	

■年齢別

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
人数	0	0	2	3	1	7	2	1	16
%	0	0	12.5	18.7	6.3	43.7	12.5	6.3	

■職業別

区分	教職員	会社員	学生	公務員	団体	その他	不明	合計
人数	3	2	0	1	1	9	0	16
%	18.7	12.5	0	6.3	6.3	56.2	0	

※職業別（補足）

- ・教職員： 大学講師、教員
- ・学 生： ー
- ・団 体： 研究団体
- ・会社員： 会社員
- ・公務員： 公務員
- ・その他： 無職、ボランティア、主婦、アルバイト

1 愛知県 定時制・通信制教育アップデートプランの経緯・ねらい（P1）

（1）御意見の概要（7人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	1	公立の定時制・通信制高校教育の充実をテーマとしたことに感謝する。
2	3	定時制や通信制に転学する生徒が後を絶たない県立高校の現状を踏まえたプランだと思うが、対策が遅すぎる。入試でも定員が割れている。県立高校には本当に魅力がない。転学を希望する生徒を引き止める術もなく、生徒を見送るばかりだ。教員にも魅力がない。それを選んできたのは愛知県教育委員会だ。
3	4	アップデートプランは非常に良いことだが、実現を2024年に前倒しすべきだ。ICT活用の通信高校、昼間定時制高校の分散化は生徒の負担軽減になる。
4	7	アップデートプランはさらに1年前倒したほうがよい。
5	12	6ページ右下の□の中に、「通信制、昼間定時制は、学校に行きづらい子たちの…学びの場を目指す。夜間定時制は、外国にルーツをもつ子どもたちが…学びの場を目指す。」と書いてある。この表現だと、通信・昼間定時制と夜間定時制で対象者がはっきり分かれているように受け取れるので、改めてほしい。
6	15	昨年度末まで、18年間、昼間定時制課程に勤めていた。その立場から、今回のアップデートプランの基本的な構想には賛意を表したい。長年、現場が訴えてきたことを受け止めていただき、本当にありがたい。
7	16	親の会の中では、今回のこの構想の発表に大きな期待を寄せる声が上がっています。親と子どもたちをがっかりさせてしまうことがないよう、実効性のある仕組みを望みます。

（2）県の考え方

ア 愛知県 定時制・通信制教育アップデートプランの経緯

近年、定時制・通信制高校が、働きながら学ぶ勤労青年のための学びの場だけでなく、不登校や中途退学の経験者、外国にルーツをもつ生徒など、多様な学習ニーズをもつ生徒の学びの場に変わってきています。

こうした新たな教育ニーズに対応していくため、地域社会や企業との連携・協働、専門的知識やスキルを有する外部人材の活用や個々の生徒の抱える事情に応じたきめ細かな支援などについて検討しました。

そこで、検討に当たっては、教育関係者による「新しい時代に対応した定時制・通信制教育のあり方検討部会」を設置して、本格的に検討を進め、通信制・昼間定時制は、不登校や中途退学を経験した子供たちの学びの場として充実していくこと、夜間定時制は、外国にルーツをもつ生徒への日本語指導を充実していくこととし、通信制のスクーリングを行うサテライト校と、小規模の昼間定時制を、施設に余裕のある全日制4校と一緒に設置すること、夜間定時制に進む前に日本語の基礎を学ぶ夜間中学を設置することなどを盛り込んだ「愛知県 定時制・通信制教育アップデートプラン（案）」をとりまとめました。

イ 愛知県 定時制・通信制教育アップデートプランのねらい

このアップデートプランにより、これからの通信制・定時制は、学校や地域の状況を踏まえ、学び直しの機会を増やしたり、教科の学習を理解できるような日本語の指導を受けられるようにしたりするなど学校に行きづらい不安を抱える子どもたちや、日本語の習得が十分でない子どもたちをしっかりと支援し、それぞれの子どもが自分のペースで、将来に向かって、前に進んでいける学びの場を目指していきたいと考えております。

そして、「誰一人取り残さない」、一人ひとりの個性と能力を思う存分伸ばせる、学びの実現を目指します。

2 通信制のスクーリングを行うサテライト校と小規模の昼間定時制・単位制を同じ学校内に設置
(P1・P2)

(1) 御意見の概要 (10人)

番号	応募者 番号	御意見の概要
1	1	小規模昼間定時制とサテライト校は、広範囲から通学しやすい場所に設置してほしい。広域通信制高校が「駅前留学」と称しているように、通いやすい校舎が必要だ。その意味では、構想案にある学校では不便である。
2	4	通信制・昼間定時制は福江高校にも必要ではないか。豊川市や豊橋市への通学は困難である。 通信制高校におけるICTの充実は離島の生徒にとって必要である。非常にいい取り組みである。
3	5	サテライト校でのスクーリングは、現行の1人1台タブレットの活用で十分可能だと考える。サテライト校4校を作るのは事務作業量を減らすことが目的なのか、スクーリングの場所がないからなのか、目的があいまいである。時代の流れに常に遅れていて、3年後には必要ない状況になっていると思われる。お金をかけずにやる方法はあるのだから、決定する前にもっと現場の先生方の意見を聞くことが重要と考える。令和4年度に名古屋西高校と小牧高校に旭陵のサテライト校が開校したが、学習支援にとどまった。定時制の併修生が自校でスクーリングが受けられるようにすれば、公平性が保たれ、地域バランスを考える必要性もなくなるのではないかと考える。名古屋西高校と小牧高校の本年度の検証結果を明らかにし、問題点を改善することで、ニーズを明らかにすることが大切である。スクーリングの在り方を見直すことで、解決できるのではないかと考える。建物が重要という発想自体が古いように思えてならない。 サテライト校4校が昼間定時制を主とするものであれば、時代のニーズに合っていると思う。 サテライト校というのは旭陵のサテライト校という意味なのか通信制高校という意味なのか。言葉の定義があいまいで分かりにくい。メタバースやアバターは旭陵、刈谷東、サテライト校4校のすべてで行う想定なのか。6校に分散させる必要があるのか。この構想が見えない。サポートにとどまり、スクーリングや単位の認定には関係ないということを明確にする必要もある。

4	7	<p>通信制サテライト校には、スクーリングに来る生徒や保護者のために駐車場を確保する必要がある。</p> <p>通信制高校のスクーリングはICTの活用により生徒の様々なライフスタイルに合わせて受講しやすくすべきである。</p> <p>昼間定時の生徒が無理に通学することが負担であれば通信との併用にて学習できるようにすべきである。</p> <p>昼間定時制は全日制と勤務時間帯が同じなので、教員に対する定時通信手当は不要である。その分をICTの充実のための費用に充てるべきだ。</p>
5	8	<p>通信制サテライト、昼間定時制、単位制全日制が同一校に共存し、変更可能となることは良い仕組みだ。ただ、サテライト校と本校の両方に通学するのを負担に感じる生徒もいると思うので、サテライト校への通学だけで卒業資格が得られるとよい。</p> <p>県立昼間定時制高校を地域ごとに設置してほしい。通信制高校や昼間定時制高校を選択する生徒には困難を抱える生徒が多いため、アクセスの良さは重要である。</p>
6	9	<p>不登校生徒の3～4割は起立性調節障害(OD)を伴うといわれており、OD児の特性に考慮した仕組みを是非検討していただきたい。</p> <p>一般的にODは特に午前中に症状が強く、午後からは症状が落ち着きやすいといわれている。たとえ通学日数の少ない通信制であっても、午前の早い時間帯に開講されるスクーリングやテストでは詰みである。午後の時間帯を充実させてほしい。</p> <p>長距離の移動は身体の負担が大きく、より通いやすい場所にサテライト校ができることは歓迎する。サテライト校でなるべく完結し、本校への通学回数を少なくなるようお願いしたい。</p> <p>また成長が止まるころには自然と寛解することも多く、大学などの進学を目指す生徒も増えていくであろう。幅広い分野・教科を学べる通信制⇔定時制⇔単位制全日制的行き来は歓迎する。通信制高校には基本3年で卒業できるカリキュラムや自宅での自主学習を十分に評価される仕組みも期待する。</p> <p>1. 通学は時間帯も重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクーリングは午後の時間帯も充実させてほしい。 ・特にテストの日程は柔軟にしてほしい。静岡県立通信制高校のように受検資格を得た後、個人で受検日時を選択できるように。 <p>2. サテライト校でなるべく完結させてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低でも必修科目・特別活動(ホームルーム活動)の開講。 ・本校のみの開講科目でもICT機器等を利用し、オンライン受講できるように。 <p>3. 幅広い学び。自宅での自主学習の評価、基本3年で卒業できる仕組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信制高校間でも所属校を超えて科目が受講できるように。 ・高認試験だけでなく英検・数検などの合格も単位加算。

		<ul style="list-style-type: none"> ・動画視聴などスクーリング参加数に加算される仕組み。 ・1年間の取得単位数上限の引き上げ(30単位程度に)。
7	10	<p>外国ルーツの生徒はこれまで夜間定時制へ進学する生徒が多かったが、今年度になって、昼間定時制への進学を希望する生徒が急増している。これには、昼間定時制高校に通うことを経済的に可能とする外国ルーツの生徒家庭が増加していることが背景にあるのではないか。</p> <p>プランでは、外国ルーツの生徒への日本語指導を夜間定時制高校について拡充することが計画されているが、昼間定時制高校においても今後日本語指導の拡充が必要になると思われる。既に昼間定時制の城北つばさ高校においては日本語支援が行われていますが、他の昼間定時制高校においても日本語指導の体制がとられることを望む。</p>
8	12	<p>通信制高校にサテライト校ができることは大歓迎である。しかし、サテライト校4校(佐屋、武豊、豊野、御津あおば)は、最寄り駅から遠いので、そもそも学校に行くのが苦手な子には、尚更行きにくいと思う。ゆとりある施設を利用する為の方策かもしれないが、「誰一人取り残さない」ために、そこに通う生徒の立場に立って、通いやすい所にサテライト校を作ってほしい。</p>
9	13	<p>定時制・通信制高校を希望する生徒の中には、高校中退を経験して学び直しを希望している者が多数いる。新卒生も過年度生も差別なく学習の機会を保障するようにすることが必要だ。近年では、広域通信制や通信併設の学校に入ったものの継続できず、公立定時制・通信制高校を希望する生徒もいる。</p> <p>近いところで、恒常的に指導を受けたり、他者とかかわることができるサテライト校の設置は、生徒にとって大切な施策だ。しかし、その配置は、交通の便がよくなく、決して利用しやすいとは言えない。例えば、知多地区では電車の終点の武豊であり、適切な配置とは言えない。</p>

10	15	<p>メタバースの活用が盛り込まれているが、これを現場に丸投げすることだけは避けてほしい。ただでさえ、精神的に幼く、関係性を結ぶのが困難な生徒たちである。メタバースは、関係を結ぶことのハードルを下げるが、その分、トラブルも起きやすくなる。リアルな関係の全くない者同士であればよいかもしれないが、学校という仕組みの中でリアルな関係も同時進行するため、教員などの大人の監視とサポートが不可欠である。もし本当に実施するならば、技術面をサポートする職員を常駐させ、教員が生徒の精神面をフォローしきれない体制をとってほしい。</p> <p>新しく設置される昼間定時制や通信制サテライト校の職員に、適切な研修を受けさせてほしい。また、研修を受ける余裕を与えてほしい。全日制と同じような感覚で生徒や保護者に対応する教員が、多くの生徒や保護者を傷つけてきている。せっかくだどり着いた先でまた学校に絶望してしまうことは、あってはならない。ここが解消されないと、私学通信制への流れを止めることはできない。これは、いくつもの親の会で親たちの話を聞いてきた私の実感である。親たちが望むのは、子どもが楽しく学校に通えること、子どもの心の安全が確保されること、子どもの可能性を信じ、伸びることを応援してくれる先生の存在だ。ある保護者は、子どもが教師の指導により傷ついてひきこもってしまい、「先生にとっては多くの子どもの一人かもしれませんが、私にとってはたった一人の我が子です。子どもの1年は取り返しがつかないんです。」と訴えていた。先生によって傷ついてまたひきこもって、1年をうつつと過ごさせてしまうことは、絶対にさせない、という学校にしてほしい。これは、最低条件だと思っている。子どもの安心と安全が確保されてこそ、学習にも人間関係にも取り組んでいくことができる。定時制や通信制の先生方には、高い人権意識と、子どもと親の歩んできた道への敬意を持ってほしい。</p>
----	----	--

(2) 県の考え方

通信制と昼間定時制は、進学を希望する生徒が増加しており、特に不登校を経験した生徒の学びの場となっており、毎日でも学校に行きたいという生徒が増えてきています。

しかし、現在、通信制は2校、昼間定時制は6校で地域バランスに偏りも見られます。また、通信制を設置している旭陵高校と通信制と昼間定時制を併置している刈谷東高校は、ともに施設に余裕がなく教育活動が制限されています。

そこで、通信制のスクーリングを行うサテライト校と、小規模の昼間定時制を、施設に余裕のある全日制高校の学校内に設置することといたしました。具体的には、地域バランスを考慮して、海部地区の愛西市にある佐屋高校、知多地区の武豊町にある武豊高校、西三河地区の豊田市にある豊野高校、東三河地区の豊川市にある御津あおば高校の中に、それぞれ設置します。同じ学校内に設置することで、生徒の状況に応じて、通信制、昼間定時制、全日制間の行き来を自由にし、生徒が自分のペースで学べる環境をつくります。

また、ICTを最大限活用し、添削指導のネット活用や、仮想空間メタバース・アバターによる生徒のコミュニケーション力の向上など、時代にあった新しい教育を進めていきたいと考えております。

今後の具体的な運用や教育内容については、他県の事例や、今回いただいた御意見を参考にしながら、ワーキンググループで検討していきます。

なお、アクセスのよいところへのサテライト校の設置は、今後の課題とします。

3 旭陵高校の通信制を適正規模へダウンサイジング、刈谷東高校の昼間定時制・通信制を適正規模へダウンサイジング（P1・P2）

（1）御意見の概要（3人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	4	<p>刈谷東高校の昼間定時制を大幅にダウンサイジングして 2024 年には2学級とし、他の小規模昼間定時との均衡をとるべきだ。</p> <p>刈谷東高校の昼間定時制のダウンサイジングのスピードが遅い。2025年に現状の5学級から4学級とするという計画だが、2024年には2学級とするなど再考すべきである。</p> <p>刈谷東高校は過去に水害による被害があり、ハザードマップでも水害の危険性が指摘されている。生徒の不安を取除くためにもダウンサイジングのスピードアップが急務である。</p>
2	7	<p>刈谷東高校は刈谷市水害ハザードマップによると4階まで浸水する。そのため、刈谷東高校は廃校とし、もっと安全かつ通学に便利な高校に本校機能を移転すべきである。</p> <p>不登校生徒のための昼間定時制高校を県内に分散することは必要である。学校がマンモス化することは生徒にとって精神的に負担となる。</p>
3	15	<p>2～3学級が適正規模と思う。このままでお願いしたい。ただ、このことにより、職員数も減少することになると思う。以前、4学級募集であったころから、分掌を主で行う副担任の少なさが問題となっていた。虐待や障害にも関わる相談部の業務は常に過多となっており、教務部は単位制独自の仕組みや転編入学に精通したプロフェッショナルが必要で、指導部も定時制ならではの生徒の抱える背景に配慮した対応が求められ、余裕のある人員配置は、生徒の安全を守るために必須である。定数法に従うだけでなく、県独自の加配をぜひ実施してほしい。</p>

（2）県の考え方

旭陵高校と刈谷東高校は、入学希望者が年々増加しています。そのため、4校の通信制サテライト校と昼間定時制を設置することにより、生徒数を中学生の志望状況にあわせて、段階的に適正規模にし、子供たちが身近な学校へ通える環境をつくります。

なお、本校とサテライト校を合わせた通信制の生徒数と、刈谷東高校と4校を合わせた昼間定時制の生徒数の総数は、中学生の志望に応じた数となるよう配慮します。

今後は、今回いただいた御意見を参考にしながら、ダウンサイジングの進め方についてワーキンググループで検討します。

4 相談・就労支援体制の充実（P1・P2）

（1）御意見の概要（1人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	15	スクールカウンセラーやキャリア教育コーディネーターなどの常駐化を検討とあるが、スクールソーシャルワーカーの常駐化が必須だと考える。なぜならば、定時制や通信制に来る生徒たちの大半が、複数の課題を抱えていて、家族関係や社会関係の調整や問題のアセスメントが必要だからである。これを行えるのはソーシャルワーカーだ。カウンセラーではない。しかも、福祉と権利擁護の視点を持った人でないといけない。教育の視点とは異なる視点が必要だ。退職校長を充てるとか、非常勤で不安定な雇用とかではなく、きちんと養成されたソーシャルワーカーを、適切な雇用形態で雇用するべきだ。複数校掛け持ちでも、県立学校に常駐している体制で雇用してほしい。

（2）県の考え方

スクールカウンセラーやキャリア教育コーディネーターの常駐化を検討し、不登校経験のある生徒への心のケアや円滑に社会へ移行するためのキャリア教育の充実を図ります。そのため、各校の教育内容を踏まえつつ、今回いただいた御意見を参考にしながら、導入校ごとのワーキンググループで検討します。

5 夜間中学の設置について（P3・P4）

（1）御意見の概要（9人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	1	日本語習得のための夜間中学は、外国人労働者とその子どもたちが多い愛知には必要で、県内各地域に設置が求められる。 外国人の定着と多様性のある社会の実現ため、成人が入学してくることも考えて、土日に開講する課程の設置も検討してほしい。
2	2	夜間中学は16歳以上が対象だが、香川県三豊市の公立夜間中学は、国から不登校特例校の指定を受けて学齢期の不登校の中学生が通えるようになっている。愛知県の夜間中学も不登校特例校の指定を受けてほしい。 夜間中学の設置場所や規模について、民間ボランティアらの意見を十分聴取してほしい。
3	6	定時制高校に夜間中学を設置することに賛成だ。愛知県の中学夜間学級は文部科学省も正式な中学校と認めておらず、その位置づけも不明確だったため、十分な対応ができていなかった。このたび、豊橋工科高校に設置されることで、愛知県が本気になったと大きな期待を寄せている。名古屋市も夜間中学を設置するとの報道もあったので、今後は名古屋市以外の尾張地区、西三河地区への設置を優先してほしい。交通費の負担や登下校の安全などを考えると、できるだけ多く設置する必要がある。財政上の問題もあろうかと思うが、できるだけ多くの高校の定時制課程に併設する方向で検討してほしい。小牧市にも外国にルーツを持つ方が多いので、小牧高校定時制への設置を強く望む。 外国人以外にも日本人で不登校等の理由により、中学校の課程からやり直したいとの希望を持つ方もいると思う。学び直しの機会を増やすよう望む。
4	10	今年度は、母国で中学校を修了して来日するいわゆる過年度生が急増し、ボランティアスタッフ人員の制約から対応しきれない状況が生まれている。過年度生は母国で中学を修了しているため、日本の中学校や高等学校といった公的学校教育の間にあり、公的な教育サポートが届かない存在となっている。過年度生は年度途中に来日し、そのまま次年度への高校進学を希望するケースが多いのが実情である。この場合、日本語を学ぶ期間が1年未満、場合によっては半年しかなく、日本語の習得が不十分なまま高校に進学することとなる。 また、母国での教育環境、基礎教育へのアクセスが整っていないため、学力が不足している生徒も少なくない。日本語を必要としない中学数学の基礎的な計算問題でもほとんど出来ない過年度生が極めて多いことを支援活動の中で経験している。 中学校に在籍している外国ルーツの生徒は学校で日本語での授業を受け、教科を勉強する機会があるが、過年度生にはそうした機会はなく、日本語力、

		<p>学力共に不足したまま高校へ進学していく。</p> <p>これから設置が予定されている夜間中学において、対象とされている「不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方」に外国ルーツの過年度生も対象として含め、高校での授業についていけるように、学び直しの機会を提供してほしい。</p>
5	11	<p>外国人生徒の「夜間定時制高校への進学」ばかりが強調されている。現在夜間定時制の外国人入学者が多いのは、様々な制約でそこしか選べないからである。好んで夜間定時制高校を選んでいるわけではない。子どもたちは様々な夢や希望を持っている。夜間中学卒業後、目標の実現のために進学先が選べる支援体制を整えるべきだ。</p> <p>課程内の日本語指導は非専門家の教員が行うと理解した。それでは抽象的な思考をするための言語能力を短期間に伸ばせるとは思えない。課外の大学生や外部との連携でできることはわずかだ。学校が責任をもって、日本語能力をきちんと伸ばせるカリキュラムの策定、さらに教科の学び方を外国人も日本人も理解しやすいユニバーサルデザインを目指すという両輪の取組が必要だと考える。</p> <p>外国人に特化していない夜間中学のカリキュラムがどうなっているのか把握していないが、教育課程のイメージを見ると日本語の習得ばかりに時間が割かれており、日本語ができなければ中学校の教科学習に進ませないという考えが見える。日本語の習得には時間がかかる。この進め方では、中学校の教科内容にかけられる時間は相当少なくなる。それでは進学時に大きなハンデを背負うことになってしまう。日本語指導と教科学習を同時に進めて言語と思考能力を伸ばしていく考え方が必要だと思う。</p>
6	13	<p>日本語の基礎を学ぶための夜間中学校については、年齢に関係なく日本語の習得を必要としている人がいる。これまで、民間のボランティアなどの努力で日本語と基礎的な知識の習得を助けることが行われてきた。こうした人たちの経験を生かすことが大切だ。</p> <p>夜間中学校の定員が学年で10名程度とされており、日本国籍の生徒が2割（すなわち2名）その半分（すなわち1名）が60歳以上という想定では、具体的に希望者が集まった時に、うまく対応できない。もっと柔軟に対応できるように、定数を多く設定して体制をつくる必要があると思う。</p>

7	14	<p>「日本語の基礎を学ぶための夜間中学」というのは「日本語の基礎も学べる」としたほうが良いと思う。</p> <p>「夜間中学」の設置は、大変良いことだと考えるが、場所の決め方が不透明だと思う。どの地域にどれだけのニーズがあるのか、全県的なニーズ調査をしたうえで、どのような夜間中学であれば生徒が集まるのかなど、事前にきちんと把握したうえで、必要な人々の学び直しができるよう教育環境を整えることが重要だ。</p> <p>当事者のことをよく知っている地域の支援団体や義務教育関係者などの意見をよく聞く必要がある。そのためにも関係者によびかけて、検討会議を開催するなどして、より良い夜間中学校を作してほしい。</p> <p>生涯教育の内容と中学校での学び直しのような基礎教育の内容とは別の物だ。当事者のニーズに合わせてゆっくり学べる夜間中学の良さを最大限生かした学校を作してほしい。日本語支援は教科の中でも可能だ。日本語だけを支援しても教科につなげられなければ学びが深まらない。ぜひ、教科担当者が困らないように、教員研修を充実させ、SCやSSWの常置も含めた充実した教育条件を整備してほしい。</p>
8	15	<p>大歓迎である。これを拡大してほしい。できるなら、高校入学までに日本語の学習の基礎だけでも済ませることができるよう、促してほしい。また、学習言語が身につくには何年もかかるため、高校入学後にも日本語の指導が必要である。高校内で日本語指導を受けられるような体制にしてほしい。高校内でないといけないのは、外国ルーツの日本語能力の低い生徒のほとんどが、貧困層だからである。アルバイトをしなければならず、ヤングケアラーであることも多く、学校外の「未来塾」まで通う余裕や学習意欲のある生徒は少ない。そういう生徒たちこそ、丁寧に支援する必要がある。各校に日本語教室を作るのが難しければ、拠点校からオンラインでつないで実施でもよいと思う。日本語の授業についていき、きちんと学力保証できる体制が必要だ。</p>

9	16	<p>外国人研修生・実習生のなかには子どもを帯同している方も少なくない。すでに学齢を超えて青年となり、結婚した子どもたちも少なくない。しかし、小学校高学年、中学生になってから日本にきた子どもたちのなかには日本語が十分理解できないまま中学を卒業した方も少なくない。なかには二十代後半になる青年もいるが、中卒のため正社員にはなれず、日本語が不十分なためまともな仕事に就けないでいるという相談もある。彼らは親と違い自ら望んで日本に来たわけではなく、帰国したくても母国には家族がいないため帰国できず否応なく日本で生活している。</p> <p>「愛知県の外国人児童生徒数」によれば、この十年間外国人中学生の数と高校生の数は3倍ほどの違いがあります。令和3年では中学生が4,631人に対し高校生は1,455人と6割以上が中卒となっている。この十年間では1万人近くが中卒で社会に出ていることになる。高卒以上を正社員の条件とする事業所が多いなか、彼らはずっと非正規の仕事しかつけない。</p> <p>今回のアップデートプランでは豊橋工科高校にひと学年10人の計画ですがこれでは全く足りない。</p> <p>この間の中学卒業者を対象に夜間中学希望者を調査して、必要な定員を確保できるよう改善を求める。</p>
---	----	---

(2) 県の考え方

2021年1月の菅総理大臣の国会答弁を受け、文部科学省は「政令指定都市のある道府県は、政令指定都市に1校、政令指定都市以外の県域に1校の設置をする」としています。

また、愛知県の財団運営による「中学夜間学級」は、「自主夜間中学」の位置づけになっており、夜間中学に認められていません。

そこで、名古屋市に次いで外国人が多く居住し、夜間中学で学びたい外国人のニーズが高い地域である豊橋市の豊橋工科高校に県立の夜間中学を設置することとしました。

豊橋工科高校には、夜間定時制があり、給食施設など、夜間中学を設置するためのメリットが揃っています。

対象となる生徒は、義務教育を修了しないまま学齢期を経過した方や、不登校などにより十分な教育を受けないまま中学校を卒業した方、外国籍の方などです。なお、特例として不登校の生徒が中学校に籍をおきながら、夜間中学へ通うことも可能とします。

また、「若者・外国人未来塾」と連携し、夜間中学と定時制の両方の生徒を対象に、授業前に日本語サポート教室を行います。さらに、夜間中学の生徒が日本語を習得し、高校で技術を身に付けて就職できるよう、豊橋工科高校の夜間定時制への進学を支援します。

なお、その他の具体的な教育内容については、今回いただいた御意見を参考にしながら、ワーキンググループで検討していきます。

6 アップデートプラン全般について（P 1～P 8）

（1）御意見の概要（4人）

番号	応募者 番号	御意見の概要
1	3	<p>外国にルーツを持つ生徒を大事にしなければならない。人口減少の日本で労働力になる大事な若者たちである。しっかり基礎力をつけて日本国内で働いてほしい。このことに力を注ぐべきだ。</p>
2	8	<p>私立通信制高校の人学者が多いのは、年度途中からでも随時入学できることが大きな要因の一つだと思う。しかし、高卒資格を得るために必要な学費は県立高校と比較するとかなり高額である。県立通信制高校でも入学時期を柔軟にしてもらいたい。</p> <p>通信制高校にはスクーリングのない平日にも生徒の居場所があると良い。自習室や学校図書館などは学校開校日はいつでも利用可能にしてほしい。他県の県立通信制高校や昼間定時制高校では、図書館司書が常駐し、学校開校日にはいつでも学校図書館を利用できる高校がある。</p> <p>今の県立通信制高校では、教員が生徒個人とかかわることがほぼなく、個々の事情に沿った支援や対応があるとは思わない。全日制高校のように、生徒面談や進路相談など教員と生徒個人とのかかわりは何かほしい。（ただ、学習の進め方を工夫したり、学校生活の改善を実践したりするかなり熱心な教員の方々には感謝している。）</p> <p>県立通信制高校や昼間定時制高校でも、進学希望者が進学に必要な勉強をできる仕組みを作ってほしい。（私立通信制高校ではオプションで受験サポートがある。）</p> <p>全日制高校同士で転校できる仕組みがあると良い。全日制高校で進学のための勉強を続けたいと思い転校先を探したが全く見つからず、仕方なく通信制高校へ転校した。全日制高校で不登校になった場合、クラスの教室以外で学習を続けられる仕組み、他の勉強手段で単位を認定する仕組み等もあれば、通信制高校に転校する生徒が減るのではないかと。</p>

3	10	<p>外国にルーツを持つ生徒への日本語や教科の学習支援をするボランティア活動に参加している者だ。今回発表された「愛知県 定時制・通信制教育アップデートプラン(案)」は外国ルーツの生徒達が直面している諸課題に解決への扉を開くものであると、期待をもって受け止めた。</p> <p>アップデートプランは定時制・通信制教育に焦点を当てたものなので、全日制高校に関しては今回の意見聴取に該当しないと思うが、この機会を借りて、外国ルーツの生徒への本来の学力に適した学び場の拡大について意見を述べさせていただきたい。</p> <p>愛知県の公立高校(全日制)で外国人生徒等選抜入試が実施されている高校は現在 11 校で、名古屋市内では名古屋南高校と中川商業高校の 2 校のみとなっている。そのため、本来学力が十分にある外国ルーツの生徒でも、学力レベルや学びたい分野がマッチせず、結果として昼間定時制高校に進学せざるを得ないといった状況がある。</p> <p>外国ルーツの生徒も日本人生徒と同じように様々な学力レベルがある。それぞれの学力レベルに応じた学びの場が提供されるように、外国人生徒等選抜入試を実施する公立高校が大幅に増えることを望む。多くの公立高校で、日本人生徒が外国ルーツの生徒と共に学び、学校生活を過ごす経験は、将来、共生社会の担い手、またグローバル化する世界で活躍する人材として育ていく上で、極めて有益なものとなると思う。</p>
4	13	<p>「誰一人取り残さない」という姿勢はとても大切なものだ。それを実現するには、一人ひとりの希望を受けとめ各校の現場での経験を活かすことが大切だ。しかし、それを支える人材の育成・配置がまず求められる。</p> <p>勤労学生が減るなかで、夜間定時制高校の廃校や募集減がつづき、夜間定時制高校の配置のバランスが崩れている。そのことは、志望者倍率にも表れている。小規模昼間定時制だけでなく、夜間定時制の開設も検討される必要がある。</p>

(2) 県の考え方

2023 年度にワーキンググループを学校ごとに設置して、通信制のサテライト校と小規模の昼間定時制を設置する学校では、昼間定時制の教育課程の編成、通信制のサテライト校の開設科目などの検討を、また、夜間中学を設置する学校では、施設の活用方法、日本語指導の外部機関との連携などについて検討します。

2024 年度には、生徒や保護者に向けた入学方法や教育課程などの説明会や入学相談会を開催し、2025 年 4 月の開設、開校を目指します。